

昭英高 来春再開目指す

校名「敦賀国際令和高」に変更

千葉の学校法人支援受け

2018年度から休校状態となっている昭英高(敦賀市長谷)を運営する学校法人湖海学園は8日、来年4月の再開を目指すを発表した。千葉市の学校法人阿弥陀寺教育学園から資金などの支援を受け、校名を「敦賀国際令和高」に変更する。

同日開かれた理事会で、阿弥陀寺教育学園理事長の宇野弘之氏(75)が理事長に就任した。宇野氏は県庁で

記者会見し「千葉市などで専門学校や幼稚園を運営してきた実績がある。自主運営できるまで阿弥陀寺教育学園が支援する。地域に愛され、貢献する高校を目指す」と語った。

敦賀国際令和高は全日制の普通科で、1学年の定員50人。医師や歯科医、救急救命士、介護福祉士など医療福祉の大学などへの進学を目指す生徒を育成するといふ。

昭英高は1974年4月に創立。県大学私学課によると、ピークだった1994年度の生徒数は約1900人。95、96年にはラグビー部が県代表として花園の全国高校大会に出場した。2017年9月に湖海学園の理事長が亡くなるなど、18年度の生徒募集を停止し休校状態となっていた。

再開に向け近く、校舎の修繕工事などの準備に着手



再開に向け近く、校舎の修繕工事などの準備に着手